

## 令和 7 年度 立川市立第六小学校 学力調査等の分析について

### 1 児童の現状の実態と課題の把握するための調査

- (1) 「令和 7 年全国学力・学習状況調査」の分析（小学校 6 年生）
- (2) 「東京ベーシック・ドリル（算数）」の分析（小学校 2 ～ 6 年生）
- (3) 「令和 7 年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の分析（全学年）

### 2 各調査の分析

#### (1) 令和 7 年度全国学力・学習状況調査による分析

##### ① 各教科の調査結果と平均正答率の全国・東京都との比較

国語		区分	平均正答率（％）		
			本校	都平均	全国平均
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	78.8	77.9	76.9
		(2) 情報の扱い方に 関する事項	69.2	66.9	63.1
		(3) 我が国の言語文化に 関する事項	80.8	83.8	81.2
	表現力、思考力、判断力等	A 話すこと・聞くこと	59.0	69.9	66.3
		B 書くこと	72.4	72.4	69.5
		C 読むこと	55.3	61.0	57.5
		全体	66	70	66.8

算数		区分	平均正答率(%)		
			本校	都平均	全国平均
学習指導要領の領域	知識・技能 思考力、判断力、表現力等	A 数と計算	61.5	68.3	62.3
		B 図形	51.4	61.2	56.2
		C 測定	53.8	60.5	54.8
		C 変化と関係	53.8	64.9	57.5
		D データの活用	61.2	67.6	62.6
全体			56	64	58.0

理科		区分	平均正答率（％）		
			本校	都平均	全国平均
学習指導要領の内容	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	40.9	49.9	46.7
		「粒子」を柱とする領域	57.1	53.7	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	48.1	54.1	52.0
		「地球」を柱とする領域	72.8	69.1	66.7
	全体		58	60	57.1

#### ② 学力調査の結果分析

##### < 国語 >

平均正答率は、全国に比べて 0.8％低く、東京都に比べ 4.0％低い結果であった。

「知識及び技能」の「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」では、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」設問において、全国と比べ 1.9％、東京都と比べ 0.9％高かった。

「A 話すこと・聞くこと」に関しては、全国に比べると 7.3％低く、東京都に比べると 10.9％低かった。特に、「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」設問では、全国平均よりも 9.1％、東京都よりも 13.8％下回り、課題が見られた。グループ学習などを通して、目的や意図に応じて必要な材料を集めるだけでなく、その集めた材料を比較、分類して関係付けながら伝える内容を考える活動を多く取り入れた指導を行う。

「B 書くこと」では、全国平均よりも 2.9％高く、東京都と同等であった。「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」設問では、全国平均を 2.8％上回ったが、東京都よりも 0.9％低かった。また、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」設問では、全国平均をやや上回ったものの（0.2％）、東京都よりも 0.6％低かった。言語活動において、図や表を関連付けて自分の考えを書く活動や、事実と感想、意見とを区別して書く活動を取り入れるなど、自分の考えを伝えるための書き表し方を身に付けさせる必要がある。

「C 読むこと」においては、全国よりも 2.2％、東京都に比べ 5.7％低かった。特に「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」設問では、全国に比べて 12.1％低く、東京都よりも 12.3％低く、無回答率が 25.0％であり（全国 16.2％、東京都 19.9％）、課題が見られた。物語文だけでなく、説明的な文章などの図表が用いられている文書に触れる機会を増やせるように、朝の時間帯など、日常的に読書に親しむ時間を多くもたせたり、言語活動において、詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動を多く取り入れた指導を行う。

##### < 算数 >

平均正答率は 5.6％で、全国平均よりも 2.0％、東京都よりも 8.0％低い結果であった。

特に、「A 数と計算」領域、「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」設問は、本校 17.3％で、全国平均より 5.7％、東京都平均より 12.4％低く、「B 図形」領域、「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」という設問は、本校 26.9％で、全国平均より 10.1％、東京都平均より 16.6％低かった。どちらの設問も、分数や

図形の基本的な概念についての理解に課題が見られた。朝の時間帯などに、基本となる分数の加減乗除の問題や面積を求める問題に取り組み、習熟を図る指導を行う。

さらに、「C 変化と関係」領域で、『「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる』設問に関しては、全国に比べると6.3%、東京都に比べると17.7%低く、「D データの活用」領域、「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる」設問に関しては、全国よりも9.1%、東京都よりも13.5%低く、課題が見られた。今後の学習場面において、自分の考えを言葉や式、図、表、グラフ等を用いて、ノートにまとめたり、ICT機器を活用して、自分の考えを表現したり、伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにする。また、数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する力を高めたりするなど、計画的に指導していく。

＜理科＞

本年度は理科の調査が行われ、本校の理科の平均正答率は58%で、全国平均より1.1%高く、東京都平均より2.0%低かった。その中でも、A区分「粒子」領域は全国平均より5.4%、東京都平均より3.4%、B区分「地球」は全国平均より6.1%、東京都平均より3.7%高かった。一方で、A区分「粒子」領域の中で、「水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる」設問では、全国平均より6.4%、東京都平均より5.7%低く、「電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる」設問では、全国平均より14.1%、東京都平均より18%低く、課題が見られた。

今後の学習場面において、予想したことを確かめるためにどのような実験をすればよいのかを考えるだけでなく、実験から得られた結果を基に問題に対して考察する活動を積極的に取り入れるようにする。

（2）東京ベーシック・ドリル診断テスト（算数）による分析（令和5年度立川市の平均と比較）

①今年度の診断テストの結果

領域別平均正答率（％）									平均正答率	
	A 数と計算		B 図形		C 測定 変化と関係		D データの活用			
	本 校	立川市	本 校	立川市	本 校	立川市	本 校	立川市	本 校	立川市
2 年	78.0%	69.2%	96.5%	87.6%	74.6%	71.0%	61.4%	47.5%	77.9%	69.6%
3 年	56.7%	62.6%	37.8%	49.2%	16.7%	36.0%	8.9%	46.4%	46.1%	54.7%
4 年	75.8%	71.1%	43.3%	48.4%	68.3%	64.8%	59.6%	45.1%	71.4%	67.5%
5 年	67.7%	63.2%	40.7%	49.4%	43.9%	48.6%	64.7%	56.5%	60.2%	58.8%
6 年	53.7%	60.1%	51.4%	53.9%	30.1%	38.8%	36.1%	50.9%	45.0%	51.5%

②令和5年度の立川市内平均を下回った領域

2 年実施【小1】	3 年実施【小2】	4 年実施【小3】	5 年実施【小4】	6 年実施【小5】
-	数と計算 図形 測定、変化と関係 データの活用	図形	図形 測定、変化と関係	数と計算 図形 測定、変化と関係 データの活用

③課題と今後の取組

2年生は、平均正答率は77.9%で、市平均の69.6%に比べ8.3%高い。特に「データの活用」領域では、市平均より13.9%高い。どの領域でも、市平均を上回っている。引き続き、朝学習や家庭学習等の時間を活用して、基礎的な計算を速く、正確にできる力をつけられるようにする。

3年生は、平均正答率は46.1%で、市平均の54.7%に比べ8.6%低い結果となり、どの領域でも市平均を下回り、学習状況に課題が見られた。ドリル等を活用して、基礎的な学習内容を身に付け、自分の考えを表現したり伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにする。

4年生は、平均正答率は71.4%で、市平均の67.5%に比べ3.9%高い。しかし、「図形」領域の円と球の問題の正答率が市平均よりも10.6%低い結果であった。「図形」領域の単元を丁寧に指導して、学力の定着を図る。

5年生は、平均正答率は60.2%で、市平均の58.8%に比べ1.4%高い。しかし、特に「図形」領域が市平均より8.7%低い結果であった。朝学習等を活用して、「図形」領域の定着を図る。

6年生は、平均正答率は45.0%で、市平均の51.5%に比べ低い結果となり、どの領域でも市平均を下回り、学習状況に課題が見られた。ドリル等を活用して、基礎的な学習内容を身に付け、ICT機器等と活用して自分の考えを表現したり伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにする。

2・4・5年生は、平均正答率が市平均を上回った。今後も、毎週金曜日の朝学習の時間を活用し、東京ベーシック・ドリルに取り組むとともに、発展的な問題にも取り組ませる。3・6年生は平均正答率が市平均を下回った。理解が不十分な領域については、指導法を改善するとともに、反復練習をして理解を促し、さらなる学力の向上を図るために個別最適な学習を展開していく。

(3) 令和7年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査による分析

①今年度の東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果

種目	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール 投げ(m)
本校平均 (全校児童)	14.1	15.4	35.3	31.9	28.8	10.2	120.3	14.6
都平均	12.9	16.3	32.9	34.2	30.9	10.3	132.8	12.4

②結果分析

「握力」は、都の平均以上の結果が出ており、筋力を高める運動に取り組んだ結果が見られた。「長座体前屈」は都の平均を上回り、授業などで全身や各部位をゆっくりと曲げたり回したりして関節などの可動範囲を広げる動きを通じて、体の柔らかさを高めようと令和7年度も取り組んでいる。「ソフトボール投げ」は、都の平均を上回り、体全体を使った大きなフォームで投げることができるよう、今後も投げる力を高められる指導を継続する。「20mシャトルラン」は、都の平均を下回っており、課題が見られた。令和6年度の取組においては、縄跳び、持久走など、長時間粘り強く続けていく運動を取り入れ、「持久走週間」などを活用して持久力を高めるようにした。「立ち幅跳び」については、都の平均を下回っている傾向にあり、「なわとび週間」を活用して縄跳びに取り組み、瞬発力や跳能力を身に付けられるよう今後も継続的に指導する。

③都平均と本校を比較し、各学年の課題と体力向上に向けた取組

各学年	各学年の課題と体力向上に向けた取組
1年	・20mシャトルランが低い傾向にあるため、運動を持続する能力を向上させるために、鬼ごっこや走の運動に取り組ませる。
2年	・20mシャトルランが低い傾向にあるため鬼ごっこや簡単な持久走など、持久力を鍛える運動に取り組ませる。
3年	・立ち幅跳びが低い傾向にあるため、体全体を使ったフォームで跳ぶことを意識させ、走り幅跳びや走り高跳びに取り組ませる。
4年	・男子は反復横跳びが低い傾向にあるため、敏捷性向上のために、短い距離のダッシュや方向転換を取り入れた活動に取り組ませる。 ・女子は立ち幅跳びが低い傾向にあるため、体全体を使ったフォームで跳ぶことを意識させ、走り幅跳びや小型ハードル走に取り組ませる。女子は「50m走」がやや低い傾向にあり、短い距離を速く走る運動に取り組ませる。
5年	・男女ともに、立ち幅跳びが低い傾向にあるため、体全体を使ったフォームで跳ぶことを意識させ、走り幅跳びや走高跳に取り組ませる。
6年	・男女ともに立ち幅跳びが低い傾向にあるため、体全体を使ったフォームで飛ぶことを意識させ、走り幅跳びや走り高跳びに取り組ませる。